

調査研究報告書

調査研究課題

スイッチ OTC の普及促進を指向した一般生活者に対する意識調査

所属機関及び調査研究者名

東京薬科大学 薬学部 一般用医薬品学教室 成井浩二

(所在地：〒192-0392 東京都八王子市堀之内 1432-1 電話番号：042-676-5825)

要旨

効率的なスイッチ OTC 医薬品の開発、製造販売、普及のための一助となるデータを収集するために、一般生活者がスイッチ OTC 医薬品に対して持っている意識やニーズを調査した。

スイッチ OTC 医薬品は半数以上 (56.5%) の一般生活者に認知されていた。一般生活者の 74.0% がスイッチ OTC 医薬品を使用したいと回答し、薬効群によっては、その約半数、慢性疾患といわれている高脂血症や高血圧症に用いられる『コレステロールを下げる飲み薬』、『血圧を下げる飲み薬』は男性で 32.0%、25.3% が OTC 医薬品へのスイッチを望んでいた。また、スイッチ OTC 医薬品を認知しているほど、スイッチ OTC 医薬品を使用したいと回答することが明らかになった。そのため、スイッチ OTC 医薬品の普及には、スイッチ OTC 医薬品の認知の向上、つまり、教育・啓蒙活動によりスイッチ OTC 医薬品を知ってもらうことが最優先であることが強く示された。医療用医薬品が OTC 医薬品にスイッチされた場合、希望購入平均価格は自己負担額の 65% 程度であることが明らかになった。

医療用医薬品の OTC 医薬品へのスイッチが消極的な主な理由は安全性が確保できないことがあげられるが、本研究で示したように、一般生活者の約 3/4 がスイッチ OTC 医薬品を使用したいと回答していたことから、一般生活者のニーズを満たすためには、安全性の確保ができる体制作りや、薬剤師その他の医薬関係者の知識とサポートの向上が必要である。

1. 調査研究目的

一般生活者の健康に対する指向の高まりから、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」というセルフメディケーションの考え方¹⁾が注目されている。また、本格的な高齢社会を迎え、医療費および医療資源の効率的な使用の観点から、厚生労働省は 2007 年に策定した新医薬品産業ビジョン (2008 年一部改訂) において、「セルフメディケーションの考え方を、さらに進める観点から、一般用医薬

品の有効活用を進めていくことが重要である」と述べている²⁾。さらに、「特に、医療用医薬品からの転換による「スイッチ OTC 医薬品」や新規効果を持つ OTC 医薬品の開発の進むことにより、従来、一般用医薬品に求められていた効果・効果を超え、国民が求める健康等新たな志向（例えばメタボリックシンドロームの予防、スキンケア効果など）に応えることができると考えられる」とし²⁾、スイッチ OTC 医薬品への転換や開発も期待されている。そこで、本研究は、一般生活者がスイッチ OTC 医薬品に対して持っている意識やニーズを調査し、効率的なスイッチ OTC 医薬品の開発、製造販売、普及のための一助となるデータを収集することを目的としている。

2. 調査研究方法

2-1. アンケート調査

アンケートは平成 24 年 3 月、東京都多摩地区のスポーツクラブにて実施した。調査員を館内の運動スペースに 5 名、ラウンジに 1 名配置し、午前 10 時から午後 6 時まで 200 枚のアンケート用紙を当該スポーツクラブ会員に配布し、その場で回答していただいた。アンケート回答者には記念品を進呈した。

2-2. アンケート内容の概要

アンケート用紙は白地の A4 版用紙 1 枚（裏表カラー印刷）で、選択肢の丸印を塗りつぶすか、自由記述によって回答を得た（図 1）。スイッチ OTC 医薬品の認知度（設問 A）、スイッチ OTC 医薬品使用に対する意欲および薬効群（設問 B）、スイッチ OTC 医薬品使用に対する意欲の理由（設問 C、D）、スイッチ OTC 医薬品の価格（設問 E）、アンケート回答者の背景（性別、年齢、職業）について回答を求めた。

2-3. アンケートの集計と有意差検定

有効回答者数を全体の標本数（全体群）とした。また、アンケート回答者の背景や回答内容情報をもとに、回答者を各群に分類した。各群間の差は Fisher's exact probability test にて検定し、危険率（ p ） < 0.05 を有意差ありとした。

3. 調査研究結果

3-1. 全体群の背景

配布したアンケート用紙 200 枚のうち、回収できたのは 200 枚（回収率 100.0%）で、全問無記入の用紙はなく、有効回答は 200（有効回答率 100.0%）であった。回答者の性別は、男性 96 名（48.0%）、女性 103 名（51.5%）、性別不明（無回答）1 名（0.5%）であった。年齢は、20 歳未満 2 名（1.0%）、20 代 12 名（6.0%）、30 代 38 名（19.0%）、40

代 74 名 (37.0%)、50 代 51 名 (25.5%)、60 代 18 名 (9.0%)、70 歳以上 4 名 (2.0%)、年齢不明 (無回答) 1 名 (0.5%) であった。職業は、会社員 102 名 (51.0%)、公務員 10 名 (5.0%)、自営業 14 名 (7.0%)、主婦 45 名 (22.5%)、学生 4 名 (2.0%)、無職 12 名 (6.0%)、その他 10 名 (5.0%)、職業不明 (無回答) 3 名 (1.5%) であった。

3-2. スイッチ OTC 医薬品の認知度

設問 A『近年、処方せんがないと購入できなかった医療用医薬品の一部が、処方せんがなくても薬剤師の説明のもとで薬局・ドラッグストアで購入できる医薬品 (スイッチ OTC 医薬品) が増加しました。このようなスイッチ OTC 医薬品を御存知でしたか?』に対し、12.5%が『良く知っていた』、44.0%が『少し知っていた』、43.0%が『全く知らなかった』と回答した (図 2)。そのため、一般生活者の 56.5% (『良く知っていた』と『少し知っていた』の合計) がスイッチ OTC 医薬品を認知していた。スイッチ OTC 医薬品の認知度に性別で大きな違いは認められなかった (男性 56.2%、女性 56.3%) が、年齢の違いによるスイッチ OTC 医薬品の認知度は、39 歳以下では 52.0%、40 代では 55.4%、50 代では 68.6%、60 歳以上では 40.9%であり、50 代のスイッチ OTC 医薬品の認知度は他の年齢群よりも高く、逆に、60 歳以上では他の年齢群よりも低い傾向にあった。

3-3. スイッチ OTC 医薬品使用に対する意欲および薬効群

設問 B『体調不良のときに、スイッチ OTC 医薬品を使用したいと思いますか?』に対し、18.0%が『積極的に使用したい』、56.0%が『どちらかという上使用したい』、18.0%が『どちらかという上使用したくない』、4.5%が『使用したくない』と回答した (図 3)。そのため、一般生活者の 74.0% (『積極的に使用したい』と『どちらかという上使用したい』の合計) がスイッチ OTC 医薬品を使用したいと回答した。また、設問 A でスイッチ OTC 医薬品を認知していた群のうち、82.3%がスイッチ OTC 医薬品を使用したいと回答したが、スイッチ OTC 医薬品を認知していなかった群においては、スイッチ OTC 医薬品を使用したいと回答した回答者は 64.0%で有意に低かった ($p<0.01$) (図 4)。

スイッチ OTC 医薬品を使用したいと回答した群に対し、スイッチ OTC 医薬品になっ
てほしい薬効群の回答を求めた。その結果、『肩こり・腰痛の飲み薬』49.7%で最も多く、
次いで、『ものもらいの抗菌目薬』32.2%、『片頭痛の飲み薬』30.2%、『コレステロール
を下げる飲み薬』23.5%、『血圧を下げる飲み薬』18.8%の順だった (図 5)。また、その
他の自由記述のうち、ほとんどが現在販売されている OTC 医薬品で対応できる薬効群
であり、約半数が花粉症やアレルギー関連の医薬品であった。男性では『肩こり・腰痛
の飲み薬』が 46.7%、『コレステロールを下げる飲み薬』が 32.0%、『血圧を下げる飲み
薬』が 25.3%の順で、女性では『肩こり・腰痛の飲み薬』が 52.7%、『ものもらいの抗
菌目薬』が 47.3%、『片頭痛の飲み薬』が 40.5%の順だった。『コレステロールを下げる

飲み薬』(男性 32.0%, 女性 14.9%)、『痛風の飲み薬』(男性 14.7%, 女性 0.0%) を求める回答は男性の方が女性よりも有意に多かった ($p<0.05$ 、 $p<0.001$)。一方、『膀胱炎の飲み薬』(男性 1.3%, 女性 13.5%)、『片頭痛の飲み薬』(男性 20.0%, 女性 40.5%)、『骨粗しょう症を改善する飲み薬』(男性 1.3%, 女性 24.3%) を求める回答は女性の方が男性よりも有意に多かった ($p<0.01$ 、 $p<0.01$ 、 $p<0.001$)。

3-4. スイッチ OTC 医薬品使用に対する意欲の理由

設問 B でスイッチ OTC 医薬品を使用したいと回答した群とスイッチ OTC 医薬品を使用したくないと回答した群にその理由の回答を求めた。

スイッチ OTC 医薬品を使用したい理由としては、『病院にかかるより手軽だから』が 91.7%で最も多く、次いで、『薬剤師による説明を受けて購入できるから』が 28.3%、『効き目が強いから』が 15.2%の順だった (図 6)。

スイッチ OTC 医薬品を使用したくない理由としては、『OTC 医薬品を購入するより、病院にかかって治したいから』が 45.5%で最も多く、次いで、『副作用が心配だから』が 40.9%、『説明を聞くのが面倒だから』が 11.4%の順だった (図 7)。男女別にみると、男性では副作用が心配だから』が 44.4%、女性では『OTC 医薬品を購入するより、病院にかかって治したいから』が 53.8%で最も多かった。

3-5. スイッチ OTC 医薬品の価格

設問 E 『ある医療用医薬品がスイッチ OTC 医薬品になった場合、購入価格はどの程度が適正な価格と考えられますか。以下の図を考慮に入れてお答えください。』、『上の図の医療用医薬品を購入するためにかかった経済的負担が 2,000 円であった場合、同一の医薬品をスイッチ OTC 医薬品として購入するとしたら、どのくらいの値段であれば購入したいですか？具体的な金額をお書きください。』(設問中の図は図 1 設問 E 中の図を指す) に対して、1,000 円から 1,499 円と回答する一般生活者が 53.5%で最も多く、次いで、1,500 円から 1,999 円が 18.0%、500 円から 999 円が 10.5%の順で、希望購入平均価格は 1,295 円であった (図 8)。価格の分布、希望購入平均価格において、性別、年齢による分類での各群間で有意な差は認められなかった。アンケート用紙に明記されていないが、アンケート回収時に回答者に意見を聞いたところ、「薬を出してもらうのにワンステップ減る(手間が減る)のだから、価格も減らしてほしい」との意見が多かった。

4. 考察

アンケートの回収率、有効回答率がともに 100.0%と高かったのは、運動後や休憩時などの時間に余裕のある時に回答していただいたことや、景品を進呈したことが寄与したと考えられた。今回調査を実施した場所がスポーツクラブであったため、一般生活者

の中でも健康に対する意識が高い可能性があるが、全体群は男女比がほぼ同じで、20歳未満から70歳以上まで様々な年代で構成されていた。そのため、目的を満足し得るサンプリングが行うことができたと考えられた。

スイッチ OTC 医薬品は半数以上 (56.5%) の一般生活者に認知されていたが (図 2)、年代によってその認知度に差が見られた (39 歳以下 52.0%、40 代 55.4%、50 代 68.6%、60 歳以上 40.9%)。60 歳以上はセルフメディケーションの実践が低いこと³⁾や OTC 医薬品を使用しない割合が高いこと³⁾などが報告されており、それらがスイッチ OTC 医薬品の認知度が低い要因として考えられた。

スイッチ OTC 医薬品の使用に対して一般生活者の 74.0% が使用したいと回答し (図 3)、スイッチ OTC 医薬品を認知しているほどスイッチ OTC 医薬品を使用したいことが明らかになった (図 4)。そのため、スイッチ OTC 医薬品の普及には、スイッチ OTC 医薬品の認知の向上、つまり、教育・啓蒙活動によりスイッチ OTC 医薬品を知ってもらうことが最優先であることが強く示された。また、先に述べたように、60 歳以上はスイッチ OTC 医薬品の認知度が低いため、教育・啓蒙活動はその年代を中心に、かつ、その年代に受け入れられ、理解しやすい内容に工夫する必要がある。

スイッチ OTC 医薬品を使用したいと回答した群に対し、OTC 医薬品にスイッチして欲しい具体的な薬効群 (ニーズ) を調査した。選択肢としてあげた薬効群は、日本薬学会および日本 OTC 医薬品協会が公表したスイッチ OTC 薬候補成分リスト^{4,7)}を参考にした (図 1-B)。アンケート調査会場がスポーツクラブであったためか、『肩こり・腰痛の飲み薬』を選択する一般生活者が男女ともに多かった (男性 46.7%、女性 52.7%)。男女間で有意差が認められた薬効群は疾病の発症率に性差が知られており⁸⁻¹⁰⁾、その性差がニーズに反映されていた。女性よりも男性が発症しやすい高脂血症や高血圧症に用いられる『コレステロールを下げる飲み薬』、『血圧を下げる飲み薬』は、全体群では 23.5%、18.8% であるが (図 5)、男性群では 32.0%、25.3% であるため、性別の発症率を考慮すると、一般生活者のニーズは後者と考えた方が妥当であると考えられた。また、その他の自由記述であげられていた薬効群が既存の OTC 医薬品で対応できる薬効群であることから、一般生活者の一部に OTC 医薬品で対応できる薬効群が十分に知られていないことが示唆された。

スイッチ OTC 医薬品を使用したい理由は『病院にかかるより手軽だから』が 91.7% で他の理由よりも顕著に高く (図 6)、一般生活者は利便性を第一に求めていることが明らかになった。しかしながら、一般用医薬品が「医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が著しくないものであって、薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているもの」と薬事法第二十五条¹¹⁾に定義されているように、薬剤師その他の医薬関係者 (登録販売者) は需要者の適正使用をサポートする上で重要な役割を担うことが期待されており、適正使用のための情報は不可欠なものである。また、スイッチ OTC 医薬品を使用したくない

理由として多くの一般生活者があげていた『OTC 医薬品を購入するより、病院にかかって治したいから』、『副作用が心配だから』といった理由（図 7）は適正使用のための情報提供を行うことにより、減じることができる理由と考えられ、薬剤師その他の医薬関係者（登録販売者）が適正使用のための情報提供を行うことはスイッチ OTC 医薬品の普及に寄与することが強く示唆された。

医療用医薬品が OTC 医薬品にスイッチされた場合、一般消費者が求める価格を調査した。その結果、医療用医薬品が OTC 医薬品にスイッチされた場合、希望購入平均価格は自己負担額の 65%程度であることが明らかになった。本研究はスイッチ OTC 医薬品の価格を考える上で、有用なデータを示すことが出来たと考えられた。

5. まとめ

第一類医薬品は対面で薬剤師による書面による情報提供が義務づけられ¹¹⁾、さらに、一般用医薬品が「医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が著しくないものであって、薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているもの」と薬事法第二十五条¹¹⁾に定義されているように、薬剤師その他の医薬関係者は需要者の適正使用をサポートする上で重要な役割を担うことが期待されている。しかし、本調査で一般生活者がスイッチを求める薬効群の中には各専門学会からスイッチに対して消極的な意見が出されている薬効群が存在する¹²⁾。その消極的な主な理由は安全性が確保できないことがあげられる¹²⁾。しかしながら、本研究で示したように、一般生活者の 74.0%がスイッチ OTC 医薬品を使用したいと回答し、薬効群によっては、その約半数、慢性疾患といわれている高脂血症や高血圧症に用いられる『コレステロールを下げる飲み薬』、『血圧を下げる飲み薬』は男性で 32.0%、25.3%が OTC 医薬品へのスイッチを望んでおり、その割合は決して無視できる割合ではない。従って、一般生活者のこれらのようなニーズを満たすためには、安全性の確保ができる体制作りや、薬剤師その他の医薬関係者の知識とサポートの向上が必要である。

6. 調査研究発表

学術論文として投稿中である。

7. 引用文献

- 1) WHO. Guidelines for the regulatory assessment of medicinal products for use in self-medication, WHO Drug Information 14, 18-26, 2000.
- 2) 厚生労働省. 新医薬品産業ビジョン. 2007.8.20. (2008.9.9 一部改訂).
- 3) 成井浩二, 末次大作, 渡辺謹三. 改正薬事法施行以前における一般用医薬品とセルフメディケーションに関する一般消費者の意識調査. 医療薬学 36: 240-251, 2010.

- 4) 厚生労働省 厚生科学審議会. 薬事・食品衛生審議会一般用医薬品部会議事録. 2008.8.28.
- 5) 厚生労働省. 厚生労働省医薬食品局審査管理課長通知「医療用医薬品の有効成分の一般用医薬品への転用について（お願い）」（薬食審査発第 0428001）. 2008.4.28.
- 6) 厚生労働省. 厚生労働省医薬食品局審査管理課長通知「医療用医薬品の有効成分の一般用医薬品への転用について」（薬食審査発第 0828001）. 2008.8.28.
- 7) 日本 OTC 医薬品協会. 日本 OTC 医薬品協会が公表したスイッチ OTC 薬候補リスト. 2011.12.16.
- 8) 上野光一. 第 12 回性差医学セミナー報告書 薬物療法における性差. 2010.
- 9) 富田眞佐子, 水野正一. 高尿酸血症は増加しているか? -性差を中心に. 痛風と核酸代謝 30(1): 1-6, 2006.
- 10) 横山千津子, 池田宇一, 大越教夫 監修・編集. 病気と薬パーフェクト BOOK2011. 南山堂. 東京. 2011.
- 11) 厚生労働省. 薬事法. 2006.6.
- 12) 望月 眞弓. スイッチ OTC の現状と今後の展望. 日本薬剤師会雑誌 63(1): 69-72, 2011.

8. 共同研究者

慶應義塾大学 薬学部 医薬品情報学講座 望月 眞弓

東京薬科大学 薬学部 一般用医薬品学教室 渡辺 謹三

このアンケートは一般用医薬品(OTC 医薬品)に対する皆様のご意見を調査するために行っています。アンケートの集計結果は学術論文や関連業界誌などで公表されますが、取りまとめて統計的に処理されますので個人が特定されることはございません。安心してご回答ください。
東京薬科大学 薬学部 一般用医薬品学教室

以下の質問に対してあてはまる番号の前の ○ を塗りつぶして(●)ください。

A 近年、処方せんがないと購入できなかった医療用医薬品の一部が、処方せんがなくても薬剤師の説明のもとで薬局・ドラッグストアで購入できる医薬品(スイッチ OTC 医薬品)が増加しました。このようなスイッチ OTC 医薬品を御存知でしたか?(1つを塗りつぶして下さい)
○ 1. 良く知っていた ○ 2. 少し知っていた ○ 3. 全く知らなかった

B 体調不良のときに、スイッチ OTC 医薬品を使用したいと思いませんか?(1つを塗りつぶして下さい)

○ 1. 積極的に使用したい
○ 2. どちらかというで使用したい

○ 3. どちらかというで使用したくない
○ 4. 使用したくない

⇒ 裏面 **D**へ

1 または 2 を選択した方のうち、具体的にはどのような薬効の医薬品がスイッチしてほしいですか?
(当てはまるものすべて塗りつぶして下さい)

○ 1. 血圧を下げる飲み薬	○ 9. 排尿障害を改善する飲み薬
○ 2. コレステロールを下げる飲み薬	○ 10. 白内障の目薬
○ 3. 糖尿病の飲み薬	○ 11. 肩こり・腰痛の飲み薬
○ 4. 痛風の飲み薬	○ 12. ぜんそくの吸入薬
○ 5. 膀胱炎の飲み薬	○ 13. 骨粗しょう症を改善する飲み薬
○ 6. ものもらいの抗菌目薬	○ 14. 膣トリコモナスの薬
○ 7. 片頭痛の飲み薬	○ 15. 勃起不全症を改善する飲み薬
○ 8. 帯状疱疹(ヘルペス)のぬり薬	

⇒

上記以外でスイッチ OTC 医薬品として販売してほしいと思う薬効群又は医薬品名を記入してください。

⇒

C Bで『1. 積極的に使用したい』、『2. どちらかというで使用したい』とお答えになった方へその理由は何ですか?(当てはまるものすべて塗りつぶして下さい)

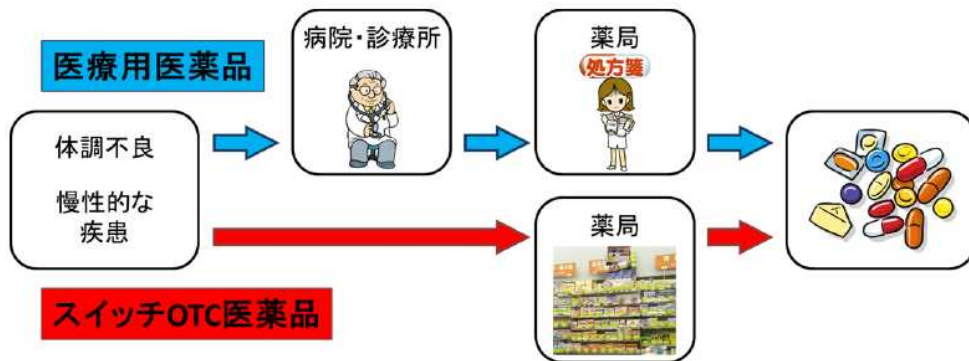
○ 1. 効き目が強いから		}	裏面 E へ
○ 2. 薬剤師による説明を受けて購入できるから			
○ 3. 病院にかかるより手軽だから			
○ 4. 新しい医薬品を使用してみたいから			
○ 5. 病院での処方薬から OTC に切り替えたいから			
○ 6. その他()			

図 1. アンケート用紙 (表)

D Eで『3. どちらかというで使用したくない』、『4. 使用したくない』とお答えになった方へ
その理由は何ですか？(当てはまるものすべて塗りつぶして下さい)

- 1. 効き目が強いから
- 2. 価格が高いから
- 3. 副作用が心配だから
- 4. 説明を聞くのが面倒だから
- 5. 近くに第一類医薬品を扱っている薬局・薬店がないから
- 6. OTC 医薬品を購入するより、病院にかかって治したいから
- 7. その他()

E ある医療用医薬品がスイッチ OTC 医薬品になった場合、購入価格はどの程度が適正な価格と考えられますか。以下の図を考慮に入れてお答えください。



上の図の医療用医薬品を購入するためにかった経済的負担が 2,000 円であった場合、
同一の医薬品をスイッチ OTC 医薬品として購入するとしたら、どのくらいの値段であれば購入したいで
すか？具体的な金額をお書きください。

【医療用医薬品(診察代も含めて) 2,000 円】
スイッチ OTC 医薬品(診察不要)

円

★★★あなたについてお答えください★★★

- 性別: 1. 男性 2. 女性
- 年齢: 1. 20歳未満 2. 20代 3. 30代 4. 40代
 5. 50代 6. 60代 7. 70歳以上
- ご職業: 1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. 主婦
 5. 学生 6. 無職 7. 1～6以外

図 1. アンケート用紙 (裏)

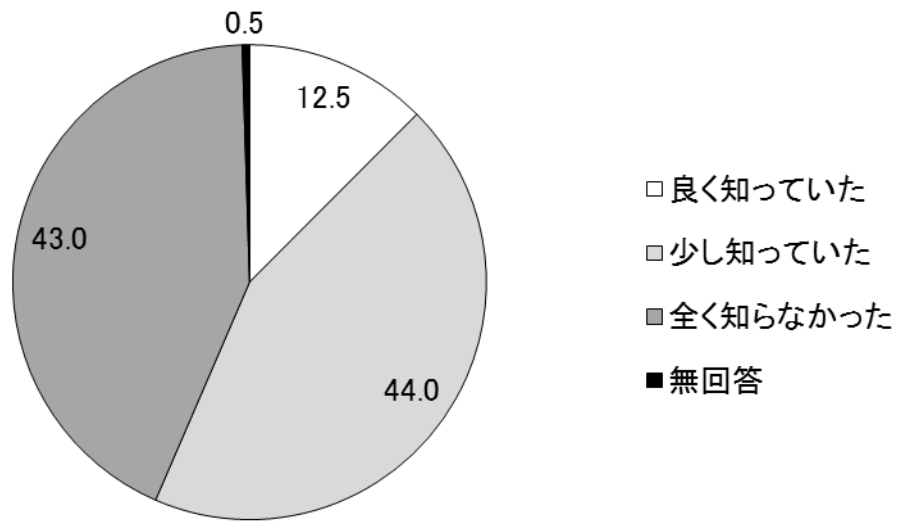


図 2. スイッチ OTC 医薬品の認知度 (%)

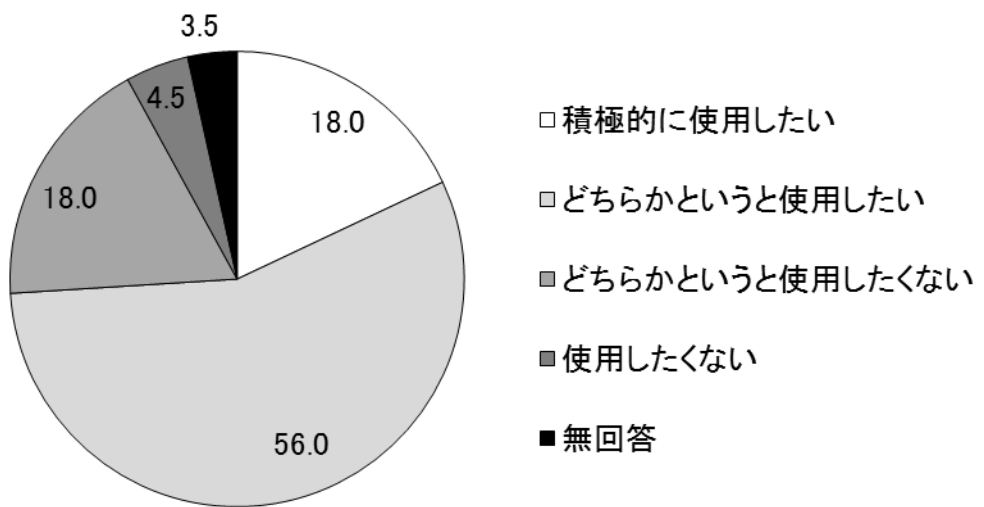


図 3. スイッチ OTC 医薬品使用に対する意欲 (%)

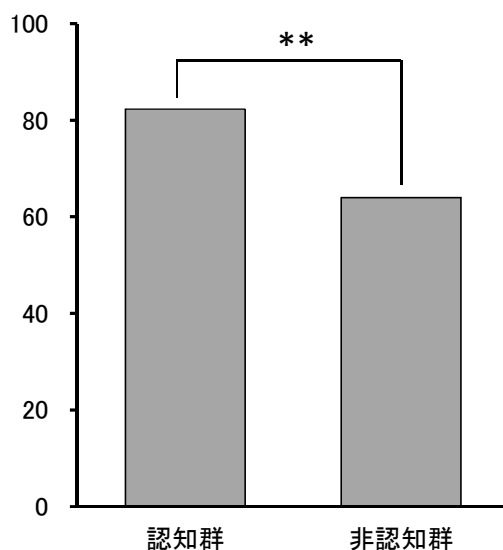


図 4. スイッチ OTC 医薬品認知群と非認知群のスイッチ OTC 医薬品使用意欲 (%)
 **, p<0.01

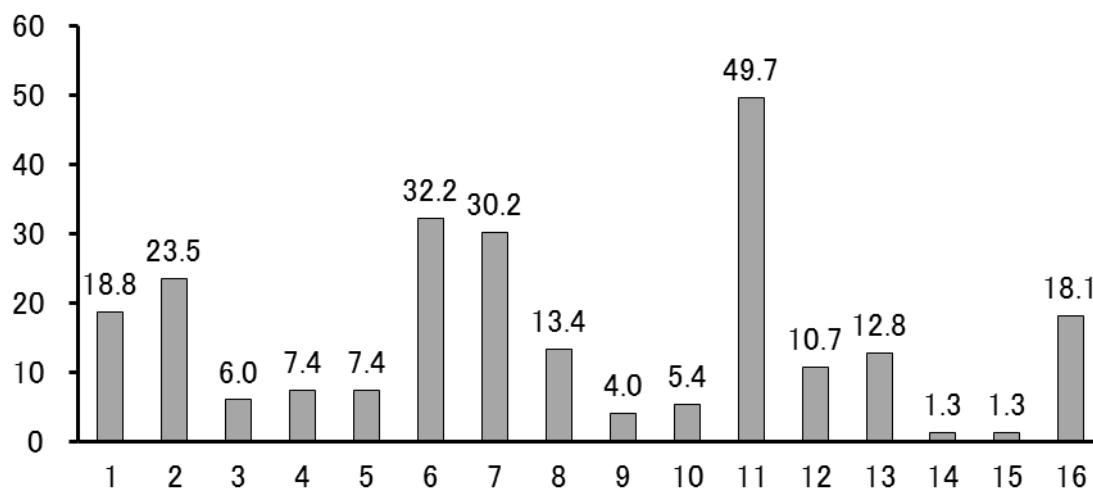


図 5. スイッチ OTC 医薬品になってほしい薬効群 (%)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 血圧を下げる飲み薬 | 10. 白内障の目薬 |
| 2. コレステロールを下げる飲み薬 | 11. 肩こり・腰痛の飲み薬 |
| 3. 糖尿病の飲み薬 | 12. ぜんそくの吸入薬 |
| 4. 痛風の飲み薬 | 13. 骨粗しょう症を改善する飲み薬 |
| 5. 膀胱炎の飲み薬 | 14. 膣トリコモナスの薬 |
| 6. ものもらいの抗菌目薬 | 15. 勃起不全症を改善する飲み薬 |
| 7. 片頭痛の飲み薬 | 16. その他（自由記述） |
| 8. 帯状疱疹（ヘルペス）のぬり薬 | NA. 無回答 |
| 9. 排尿障害を改善する飲み薬 | |

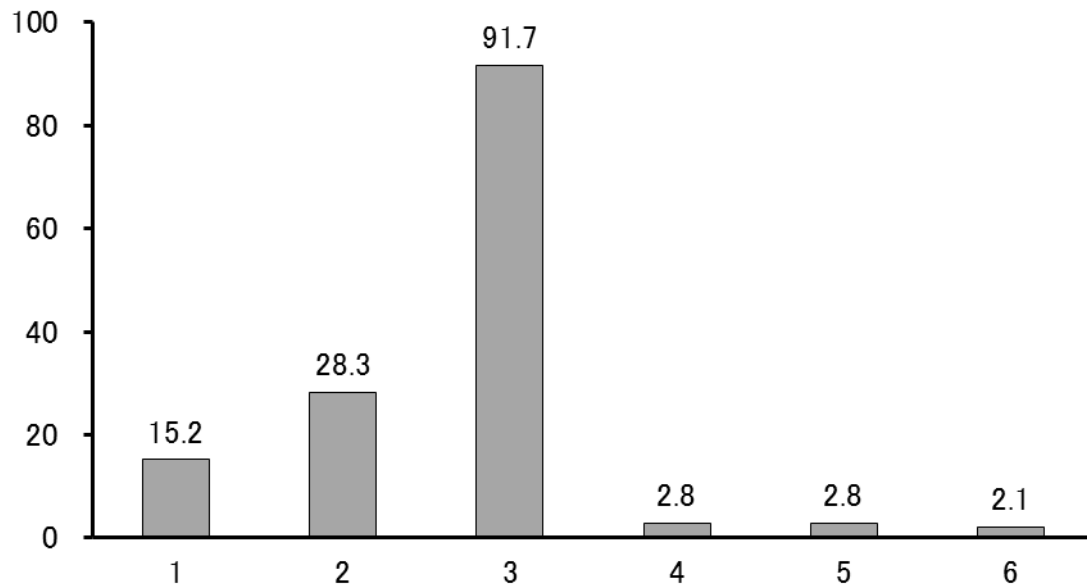


図 6. スイッチ OTC 医薬品を使用したい理由 (%)

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1. 効き目が強いから | 4. 新しい医薬品を使用してみたいから |
| 2. 薬剤師による説明を受けて購入できるから | 5. 病院での処方薬から OTC に切り替えたいから |
| 3. 病院にかかるより手軽だから | 6. その他 |

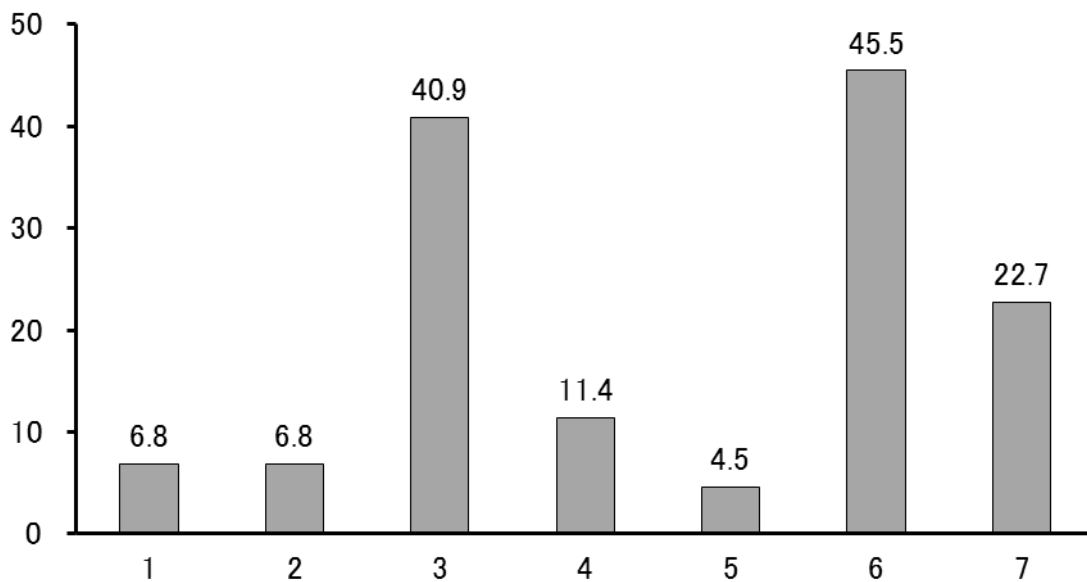


図 7. スイッチ OTC 医薬品を使用したくない理由 (%)

- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| 1. 効き目が強いから | 5. 近くに第一類医薬品を扱っている薬局・薬店がないから |
| 2. 価格が高いから | 6. OTC 医薬品を購入するより、病院にかかって治したいから |
| 3. 副作用が心配だから | 7. その他 |
| 4. 説明を聞くのが面倒だから | |

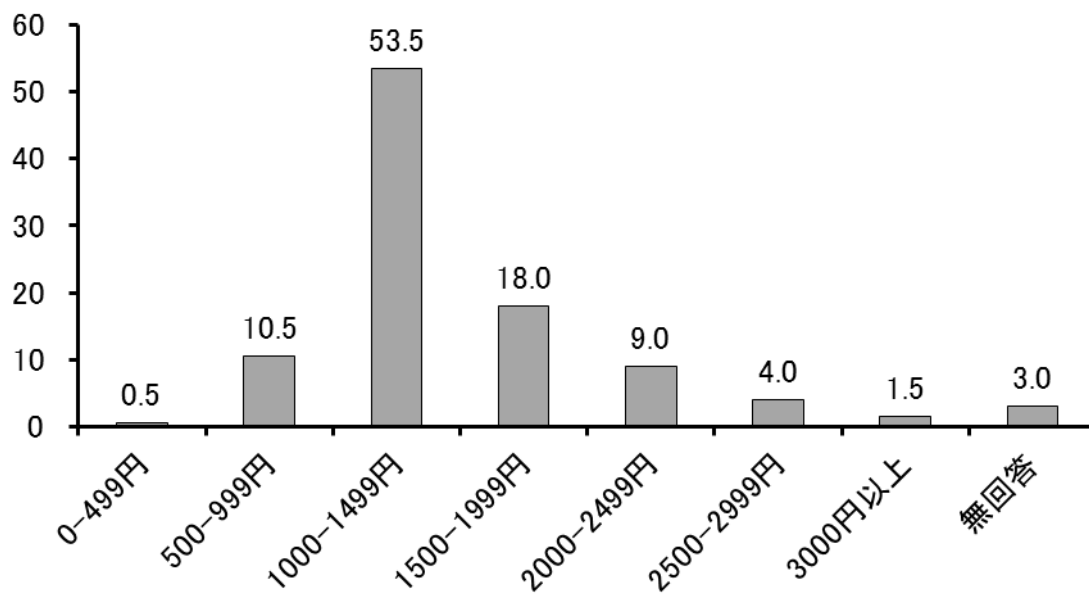


図8. スイッチ OTC 医薬品の希望価格*の分布 (%)

*病院・診療所および薬局での自己負担額が 2,000 円であった場合